

特技懇誌今昔、 そして平成28年度へ

巻・頭・言

平成28年度 特許庁技術懇話会 副代表委員／編集委員長 井上 弘亘

平成28年度の副代表委員／特技懇誌編集委員長を務めさせていただきます井上 弘亘と申します。まだまだ若輩者ですが、ご指導、ご鞭撻賜りますようよろしくお願いいたします。今年度の編集委員会は、小職と、本誌編集後記に掲載しております特実意の若手審査官を加え、総勢7名の体制ですすめてまいります。本号が、本年度編集委員会担当の第1号となります。一年間精一杯頑張りますので、よろしくお願いいたします。

さて、特技懇誌、本当の第1号は、昭和25年10月に発行されており、現在、280回以上の発行を重ね、66年の歳月が経っております（詳細については、第259号の特集をご覧ください）。昭和25年の出来事を検索してみると、朝鮮戦争勃発、貧乏人は麦を食べ発言、インフレ対策に1000円札発行があった年とされており、隔世の感を禁じ得ません。特技懇誌も、いわゆる「技懇誌」の略称ではなく、「特許庁技術懇話会々報」として、特許庁内会員間の手書きの会報であったようです。その会報が、会員皆様のご活躍とともに、現在では、庁内外の方にまでお読みいただける会報誌に成長してきたことは、ひとえに、読者の皆様のご支援と、執筆者、諸先輩方のご尽力の賜であり、感謝申し上げますとともに、本年度担当させていただくこと、身の引き締まる思いでございます。

66年の歳月を経た現在、本誌の配付は、紙によるものとともに、最新号を除く過去分の一部がネット上にも掲載されております。さらに、本年度から、会員の方のみではございますが、特技懇会員サイト (<https://tokugikon.smartcore.jp>) 内において最新号も閲覧可能としておりますので、ご勤務、留学等で海外にご在住の会員の方は、是非ともご利用いただければと存じます。

そして、平成28年度の特技懇誌は、ご要望の高い、

テクノトレンド、判決紹介、シリーズデザイン、シリーズ城などを掲載していくとともに、できるだけホットな話題を特集記事として掲載していきたいと考えております。まず、本号では、7月に行われた特技懇懇親会と、世界最高品質を目指した最新の取り組みについて特集をしております。次号以降は、まだまだ仮ではございますが、国際的な取り組み、地域支援の取り組みなどの最新事情や、新たな技術トレンド等の特集していけたらと思いがいております。

本誌のこのような企画は、業務の合間、お昼休みに編集委員が集まり検討しております。まずは、編集委員が、会員の皆様が興味を持っていただけそうな特集や記事について、昼ご飯を食べながら話し合い、特集の方向性を決めております。方向性が決まりましたら、執筆をお願いしたい有識者の方を頭に浮かべ、執筆の依頼に上がりますが、依頼した方々から、さらなる最新トピックスをご教示いただき、特集内容を練り直すこともございます。このような流れの中で、思いが先走ったり、届かなかつたりと、なかなか頭を悩ましながら、取り組んでおりますので、私も含め、編集委員メンバーがご相談に上がったときは、是非とも暖かいご支援、ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。また、皆様からのご寄稿もお待ちしておりますので、その際は、編集委員にお声がけください。

本巻頭言を書いている時期にも、英国国民投票にてEU離脱派の勝利があったり、4年で3度目の都知事選があったり、今後、アメリカ大統領選もあつたりと、今年度は激動の年かもしれません。スケールは違いますが、特許庁では、庁舎改修にともなう移転も控えております。そんな一年でございますが、皆様楽しんでいただけるよう頑張っておりますので、新メンバーの特技懇、編集委員会を、よろしくお願いいたします。